

事業区分	文化芸術事業		鑑賞事業				
事業名	茂木大輔の生で聴くのためカンタービレの音楽会						
目的・内容	平成18年にテレビドラマ化された人気コミックの「のためカンタービレ」に登場する名曲を生で聴くコンサートを開催することにより、若者を中心としたクラシックファンを拡大することを目的とする。 【使命】「文化人口の拡大とレベルアップ」「県民へのサービスの推進」 【事業の柱】「企業との協働事業の推進」、「潜在的な鑑賞者の掘り起こしと文化支援者層の拡大」						
開催日時	平成20年8月31日(日) 開演16:00						
会場	米子コンベンションセンター 多目的ホール						
入場料・参加費 (友の会)	指定席 6,500円						
集客状況	入場者数	1,538名	設定席数	1,954席	集客率	78.7%	
事業費状況	予算額	収入	96,000円	支出	598,000円	収支比率	16.1%
	決算額	収入	70,200円	支出	265,550円	収支比率	26.4%
来場者アンケート (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・マンガやテレビで見ていた曲を生で聴くことができ本当に感動した。 ・クラシックをあまり知らないのですが、新しい音楽の見方ができたと思います。 ・パソンは日本ではなかなか聴けないという事なので、貴重な機会を頂けて良かった。 ・CDで聴いた事がありますが、生で聴いたのは初めてだったので、衝撃でした。 ・音が響かないのが少し残念。施設の問題だとは思いますが。 ・チケットを購入(先行予約)するのに、席が選べない。席のランクがないのは、クラシックコンサートとしてどうなのか。 ・駐車場が一杯で、どこに止められるのか分からなかった。誘導をして欲しい。 ・時間内に席についていない人が多いのに驚いた。演奏者に失礼。 						
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラシックの入門者編といった構成・演出のコンサートであり、アンケート結果から、家族での入場が57%、クラシック公演初鑑賞者39%と、普段クラシック公演に足を運ばない層を集客出来た。 ・共催相手先の新聞を中心とした広報が、有効的に集客に結びついた。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共催事業の場合、当財団はプレ事業を実施するなど、資金援助以外の共催方法を目指すべきではないかと感じる。 ・年度当初に動きのある事業については、前年度から準備にかかっている必要がある。 ・西部地区には拠点を持たないため、チケット売上手数料を収入とした共催方法はそぐわず、共催方法の見直しが必要。 						
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話題のコミックやドラマの再現に惹かれての来場者もあったかもしれないが、鑑賞の場を体験する事でマナーの大切さや音楽の魅力を感じ取っていただけたと思う。 ・マスコミとの共催事業であった事と、話題の人気コミックに登場する音楽という内容とあって、若年層を中心とする沢山の集客ができたことは良かった。 ・「こういうクラシックがあるのか」と衝撃でもありました。「身近にする」という点でも意義のある公演だった。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財団の拠点が専従一人というのでは、その取組はきつい事業であったと推察する。このあたりを何とか改善しないと西部地区の財団認知は、厳しいものがあると思う。 ・気軽に楽しめる催しは、顧客を増やす最大の武器であるような気がするので、今後も取り入れてもらいたい。 ・西部地区の友の会拡大が課題であるが、周知の方法やより積極的な働きかけが足りないように感じられる。 ・何でもそうだが、いろいろ見て聴いて、体験してみて、その良さがわかるもの。では、それをどう県民に伝えていくか。要はPRの仕方もあるんじゃないかと思う。 						
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のような入門者向けに親子や若い世代が気軽に楽しめる公演を次年度事業として検討していく。 ・早期に事業担当者を決定し、先行予約前の広報などに取りかかれる体制を作るようにする。 ・共催内容は、プレ事業やアウトリーチの実施など、当財団の使命にふさわしい内容での実施を検討していく。 ・事業に参加し、足を運んでいただくためどのようにPRしていけば良いのか今後も検討していく。 						